渡邊推庵遺像裏書

830
137

国立国会図書館　タイトル『渡辺勘兵衛遺像裏書』　請求記号 830-137

ガラス使用

南部晋編纂

渡邊崔庵遺像裏書

臨時全國寶物取調局第一七号登録之附属

830
137

南部家藏

国立国会図書館　タイトル『渡辺勘兵衛遺像裏書』　請求記号 830-137

ガラス使用

渡邊勘兵衛遺像裏書

渡邊勘兵衛源了江州淺井郡速水庄之生也父ハ
周防母ハ井口氏

十六歳初軍北州織田信長ハ之先陣向上杉兼信ニ
依大雪不戰

十七歳為荒木叛逆信長ハ被攻之前驅阿閦
万五郎入馬ヲ此時一番首取秀吉被流丈番出信長
ハ御前ニ賜御褒美二種

十八歳破荒木之居城有邑郭一番乗當鉄炮落

大正 5. 7. 8 購求

国立国会図書館　タイトル『渡辺勘兵衛遺像裏書』　請求記号 830-137
ガラス使用

内ニ刈落城故家人來テ助ル間毎々之働度々有之
十九歳阿閉依為強力之勇將大畏大出シ為若役ト
与之以妹妻之
廿歳伊賀之国勇功之一揆ホ兼ム有信長ハ遺恨故
被攻滅長田法華両城ヲ阿閉兼勘兵衛能首数
多討取主仁一ノ働ト云
廿一歳去本国仕秀吉ハ賜百人扶持毛利方之出
城備中藻山之城圍之有火災刈一番乗ル時御養
子御覧依ニ重被付賜弐千石
廿二歳滝川一益ハ伊勢長鴻中井桒名秀吉ハ押寄
滝川率勝兵五百自身乗出味方従極勢之中四人
進出殘同前之仕形諸軍驚目ヲ
廿二歳柴田勝家ト秀吉ハ戦従夜中加リ先手ニ付玄番
退ロニ働夜明秀吉ハ傍流七本殘ト御名付之場ニ并フ後
取首ヲ
廿四歳毛利方阿波一之宮秀吉ハ被圍時鉄炮引連横
合ニ進敵不忍出丸二ツ自焼引入本城ニ

廿九歳秀吉ハ被攻小条氏ヲ先城豆別山中為名城者仕
寄与被定勘兵衛在中村一氏之麾下ニ究十死一生乗出丸
于時御本陳ニ聞貝之音傍寄續乗ル三之丸ニ而暫滞自跡
進士五十條當鉄炮死計能圖ヲ又先立押入二三之丸ニ只一滴
乗込本丸見大将切腹後勘兵衛以覚悟乗取条立一氏之
馬路ヲ令名乗今日之勘兵衛出立天下之目渡故餘ニ顕多
毛大和半月指物一方武間金ノ加斜甲例鎧金ノ大鞘巻之大小
及七寸黒之馬也
卅八歳冥ヶ原合戦上方敗軍増田右衛尉ハ大坂御後見居城

郡山也筒井伊賀守被向勘兵衛ハ日比有恩牽四百ヲ籠談城代
橋右衛門日々ニ打廻討捨近辺狼籍者制止自城論城付金良多人競望
依為兆礼押之故ハ人数九千定持呆ヲ右衛尉陪史渡城去前後以
一人之覚悟ヲ為堅固旨所状
五十四歳大坂夏ノ陣五月六日熱勢趣道明寺処ニ屋尾若井ニ
敵出勘兵衛見合窺泉別ニ及合戦若武者進テ備不調打死
多シ勘兵衛手ハ覚悟進退前後勝終ニ長曽我部之人数五拾
町追討平地ニ掛火退来多勢夜半迄今労従覚不及一夜ハ二度
出間変之折云立但老後達本望有物談

七十九歳蓮華王院之辺ニ死法號真性院一雄推菴
居士墓在花園光国院ニ
貞享元年六月日
末子渡邊不誰行年六十九歳記之　惠[illegible]

（晋云元和先鋒録に勘兵衛生涯浪人にて江州坂本にて相果申候とあるも誤なり）

○花園光国院中ニ渡邊屋敷トテ在之
推庵父子三人石碑銘
真性院殿一雄推庵大居士
ウラ寛永十七庚辰七月廿四日卒行年七十九
渡邊勘兵衛尉
離性院殿俊光道英居士
ウラ寛文三癸卯二月五日卒　渡邊三郎兵衛
英性院殿楽庵不誰居士
ウラ元禄六癸酉八月六日卒　渡邊不誰
右碑何モ石ノ幅二尺計高八尺計　臺六尺計

国立国会図書館　タイトル『渡辺勘兵衛遺像裏書』　請求記号 830-137
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『渡辺勘兵衛遺像裏書』　請求記号 830-137

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『渡辺勘兵衛遺像裏書』 請求記号 830-137

ガラス使用

雄山肖像

原本筆者不詳

○史籍年表頭書曰
淺井三代軍記　本名淺井記近江國伊香郡
木本村淨信寺地藏別當雄山著
雄山父横山次郎左エ門成陣母淺井長政
孫同国坂田郡長澤村福田寺慶安女雄
山後爲首目世称木本上人　晋云首目と
あるゝ書るゝ誤あり
○志津人嶽記序中旨　雄山ノ肉弟伊吹梅
庵ノ撰文
雄山釋門ノ徒タリトイヘ尼先祖ノ宿習ニヨリ
テカ軍事ヲ好テ多クノ諸侯ニ被愛一年或
太守ノ需ニ依テ淺井三代記并ニ賤岳記ヲ
撰此書元前住殘遊上人時代ノ人ニ聞テ記
ヲケルノ書アリ且父祖ノ記録スル処ノ書相互
ニ校訂シ撰集ス淺井三代記十五巻賤ケ岳
記一巻共ニ二十六冊ヲ以テ進呈于太守甚称
嘆シ給云々
○淨阿上人殘遊大和尚　淨信寺十八代住職本山ニ
昇進シテ金蓮寺廿七代
法嗣トナル千田采女ノ子ナリ
○其阿上人雄山大和尚　元禄七年甲戌四月晦日
江戸淺草芝崎町日輪寺ニ於テ迁化五十九
淺井記編纂ハ遊山三十三才ノ比ナリ

近江國伊香郡七郷村大字横山
内式兵主神社所藏遊山文書

明治三十六年二月一日夜於灯下
兵主神社社掌南部晋摸

雄而已之先
一先年已、年来信付候淺井三代軍之先
書早速可有拝編立之事已年来
御朱印稽々付与度之江戸人来勤仕其
翌年之年ゟ来勤本寺々相勤去
年ゟ大津之并与々相勤申ノ義ニ清々建候ハ付
三ヶ年之間何角延引ニ様ニ多事或仕御軍
一拙僧無学不文字成者之義ニ清々建候得ハ
先行ニ仕餘延引恐多事存候故先下書
十二巻第上ヶ申候

寛文五巳年夏将軍家下詔於寺社領有朱印改年代

国立国会図書館　タイトル『渡辺勘兵衛遺像裏書』　請求記号 830-137
ガラス使用

一先年己巳年之後付候儀并之代軍之覺
書早速可奉持編立之處已年之
御朱印稽之付與之江戸無勤仕其
翌年之年之來御本寺之相勤去
年之大津之并馬之相勤申義清之付候付
之年之間何角延引之將多年或仕御軍
一拙僧學不文字成者之義之清之付候得ハ
先祈之仕餘延引恐多年存候故先下書
十二巻之者上ヶ申候殘而一二巻之義ヲ而
之程以為出來之事者上ヶ下申候
一此十七不吟味成覺事　御前之者上申義恐多
年存之得之候　清淨不顧恐之持來仕候先
師殘遊古草紙之編揚流働方便之目録社
私若年之時申付祀垂申候故先師相諸之通之
事付者上ヶ申候
右之報若愛も清之生之愛之先四覺之志之親
清機嫌　御前宜取之成本末之
本ノ本
寛文八年戊申十月
十月廿五日
奥村因幡守様
淨信寺
極山
奥村因幡守憑英　前田家ノ老臣也　横山氏ノ姻族

国立国会図書館　タイトル『渡辺勘兵衛遺像裏書』 請求記号 830-137

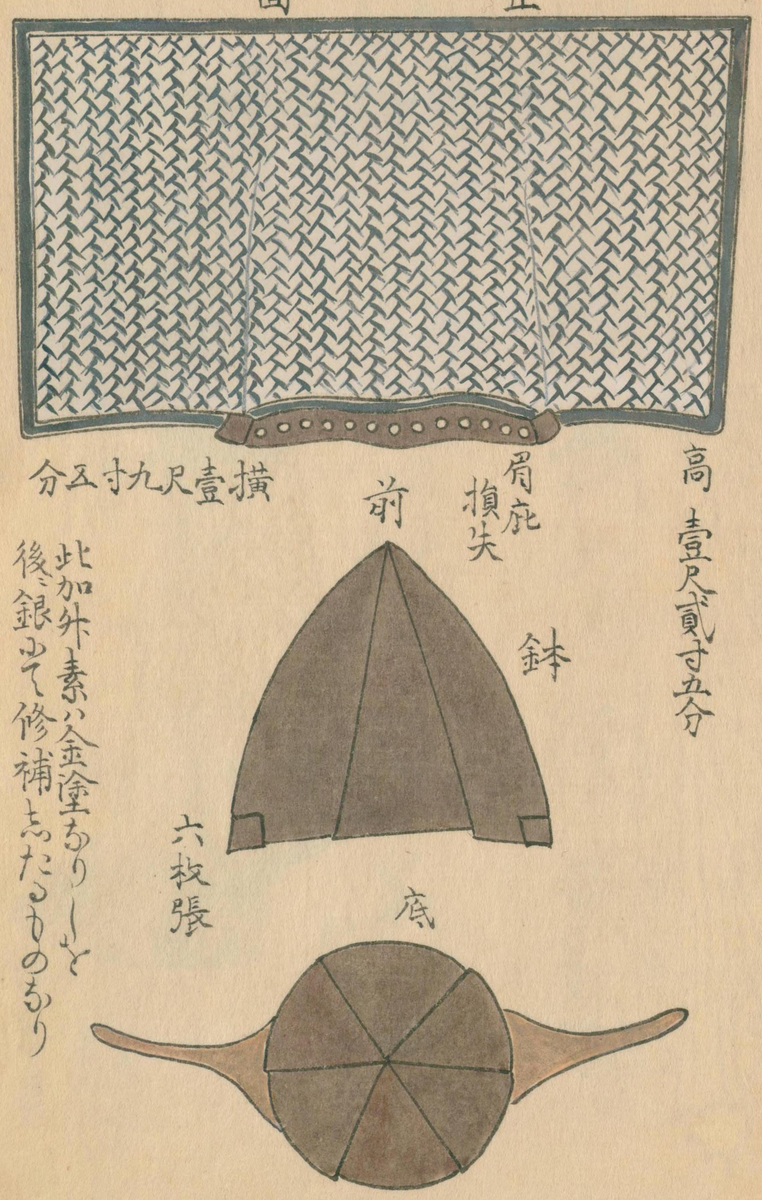
ガラス使用

右之縮寫

篠原弐部畫之

原本 絹本 竪三尺八寸五分 横壹尺七寸六分強

加升兜



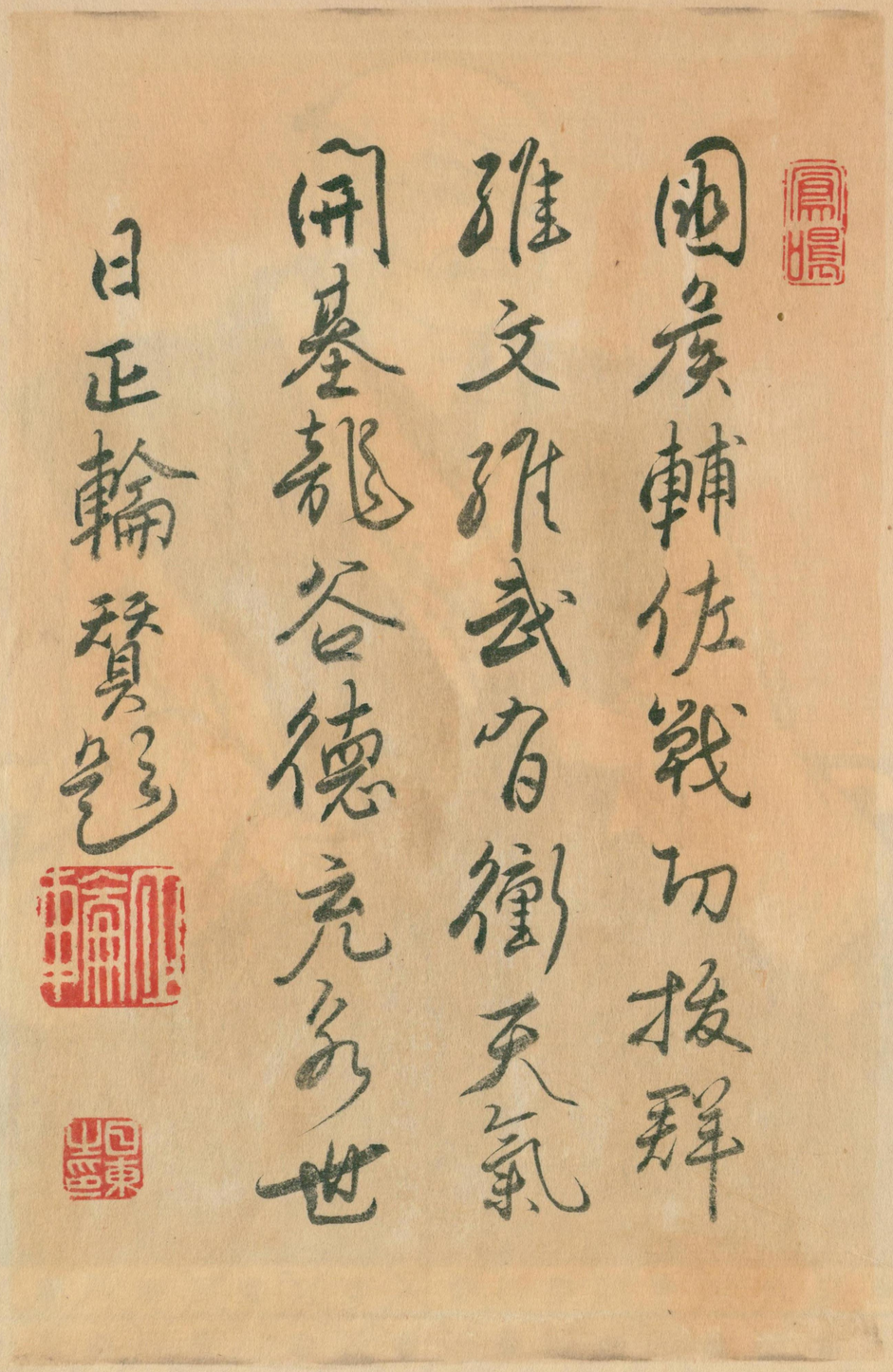
右像原本筆者欵字

篠原弐部畫之

此加升素ハ金塗ありしを後〻銀ゆて修補したるものなり

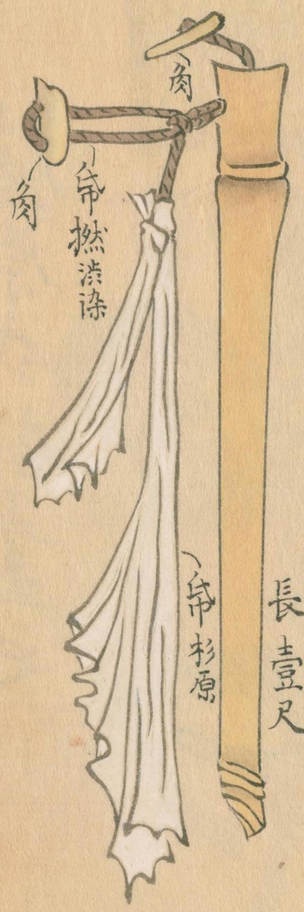
国立国会図書館　タイトル『渡辺勘兵衛遺像裏書』 請求記号 830-137

ガラス使用



國侯輔佐戰功拔群
雅文雅武有衛天氣
開基龍谷德充永世
日正輪贊彰

水呑宰配



国立国会図書館　タイトル『渡辺勘兵衛遺像裏書』　請求記号 830-137
ガラス使用

此原本
伊賀國上野廣禪寺舊藏

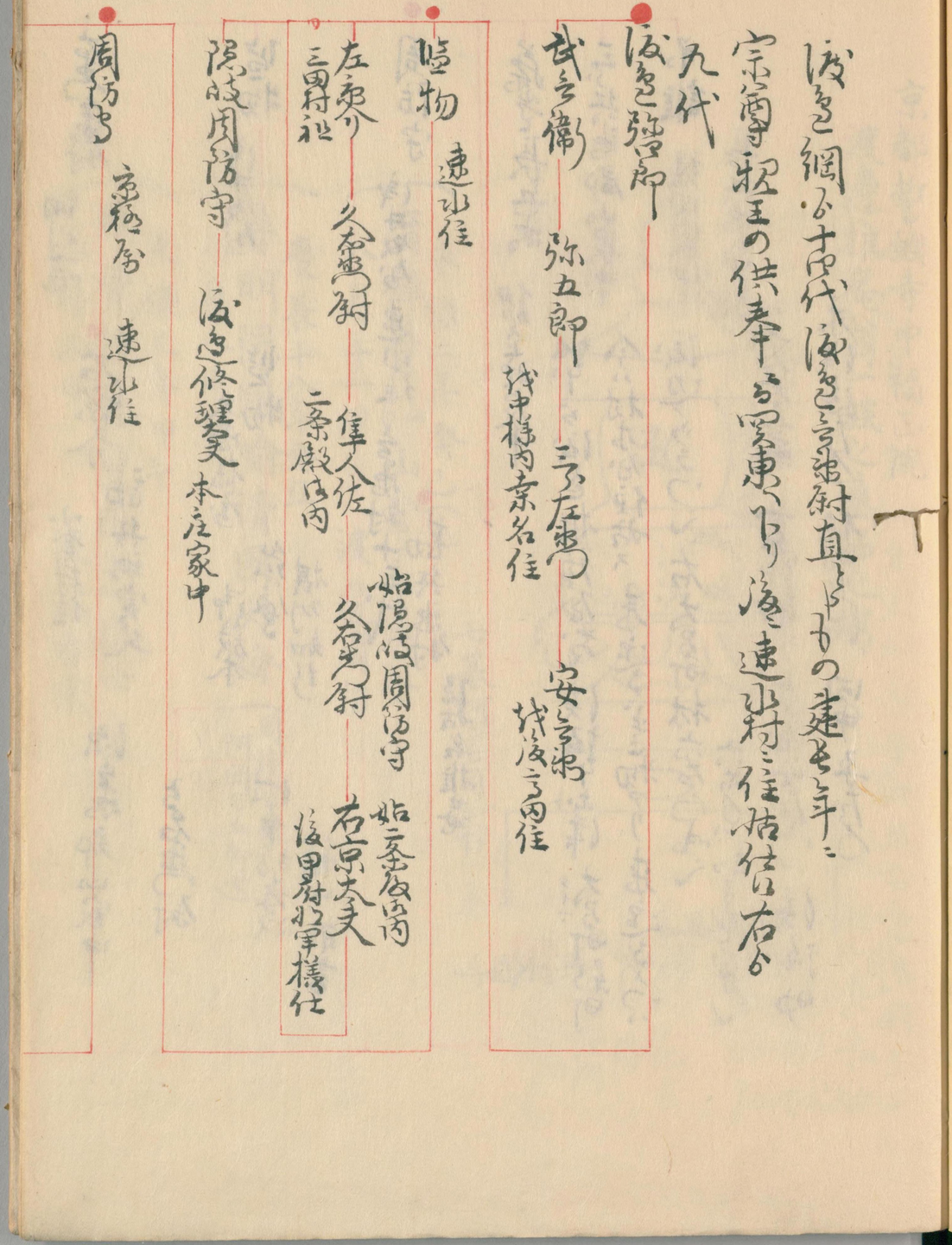
国立国会図書館　タイトル『渡辺勘兵衛遺像裏書』　請求記号 830-137

ガラス使用

君之像裏書

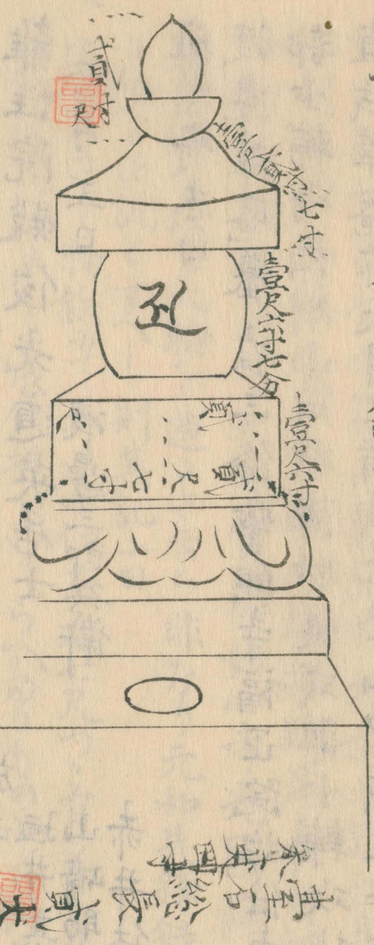
當寺開基肖像十七世和尚表具之
年歴破損因而益歳戊辰授之開
基家則再表而備永世者也

文化五年九月吉日　龍谷山主
二十四世識雫



国立国会図書館　タイトル『渡辺勘兵衛遺像裏書』　請求記号 830-137
ガラス使用

京都誓願寺中福正院
渡邊推庵翁一族之墓銘之寫



永禄二年癸巳(未)
八月十一日 廣禅寺弘山常永居士
渡邊周防

慶長十八年癸丑
八月八日 普明院縁喩清因大姉 (周防守室 阿閉万五郎女)

文禄三年甲午
三月五日 妙覚院椿叟道壽居士
渡邊右京

国立国会図書館　タイトル『渡辺勘兵衛遺像裏書』　請求記号 830-137
ガラス使用

元和元年乙卯
照光院梅林妙薫大姉
六月八日
（右京介妻 井口氏）

寛永七年庚辰（十七年）
眞性院一雄推庵大居士
七月廿四日
渡邊勘兵衛
裏 元禄六癸酉年八月六日
英性院渠庵不誰居士
施主讃州渡邊氏
琳誉常慶居士

寛永三年丙寅
祐學院法誉慶壽大姉
十一月廿八日
（勘兵衛妻 阿閉氏女）
裏 此塔一基
施主
垣井甚之丞
山﨑助右衛門
赤井休齊

寛文三癸卯暦
離性院殿俊光道英居士
二月五日
渡邊三郎兵衛

雍州府志曰
渡邊萃庵墓在三條誓願寺福正院始仕中村式部少輔而相州小田原陣時從式部少輔攻北條氏直城萃庵揷天月之指物先登山中城直入秀吉公之一覽甚被褒稱其後仕藤堂和泉守高虎難波之役施武功始名勘兵衛晩年隱東山大佛殿南和俗称武將押甲背之符而謂指物指揷之謂也是亦農保利之類也萃庵以竹造大輪揷鷄尾表月輪形故俗斯指物稱鳥毛天月實葬妙心寺光國院
晉云竹を以て大輪を造ると云ら非なり元和先鋒録に記する処を正説とすへし則其記に曰
半月のさし物鉄にて打延に仕左右七尺つゝ有之黒き鷄毛を袋に植へ抜さし成候様にさしらへかるものにて御座候云々

830
137

国立国会図書館　タイトル『渡辺勘兵衛遺像裏書』　請求記号 830-137

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『渡辺勘兵衛遺像裏書』　請求記号 830-137

ガラス使用